

dボタンを活用した 情報発信の考えは

馬淵 紀明議員

他市町村の動向を注視していく
企画政策部長



問 防災・減災対策について尋ねる。
令和5年12月議会で、

日常時、非常時ともに役立つ備えの防災思想、フェーズフリーの研究をお願いしたが、その後の研究状況は。

答 フェーズフリーは、災害時に使うものを別に用意するのではなく、ふだん使う商品やサービスなどを災害時でも使えるものに変えていくという概念で、フェーズフリーとい

う言葉が自治体の間でも使われ始めている。

本市としては、新しい言葉、概念を広めるのではなく、まずは災害への備えとして、どの家庭でも確実に備蓄を行っていくことが重要と考えている。

問 フェーズフリーを周知していく考えは。

答 備蓄食料をローリングストックすることもフェーズフリーの一つだ。

ローリングストックの必要性、引き続き既に普及しているその言葉を用いて周知徹底していく。

問 テレビのリモコンにdボタンがある。このdボタンを押すと画面が変わり、私たちが住む地域のニュースや天気、また様々な全国の情報を見ることが出来る。

テレビデータ放送dボタンを市民への情報発信として活用している自治体が多くあるが、この活用について、市の考えは。

答 県内では、名古屋市がこのサービスを活用して民放4局で発信している。

何を発信していく。

問 様々な手段で発信することは良いが、伝わっているかどうか重要な。複数のテレビ局からより多くの市民にタイムリーな市政情報や災害情報も届けられる、データ放送の活用を検討する考えは。

答 県内にいまだ普及していないことから、市政情報、地域情報を含めた情報発信について、他市町村の動向を注視していきたい。

その他の質問

- 令和7年度当初予算について
- 新たな移動手段の検討状況は



▲ dボタン広報紙の周知チラシ(福岡県八女郡広川町)

本市は引き続き、防災メール、市公式SNS、ホームページ、防災無線、ヤフー防災速報アプリ、ケーブルテレビ、コミュニティFM、アラート、広報車などの災害情報伝達手段を使って、災害情報や避難所開設情報な